

ワンナイト人狼をモチーフとした投資詐欺防止学習ゲームの開発

Development of an Investment Fraud Prevention Learning Game Based on the Concept of a One-Night Werewolf

安全 19-0251 山内 健太

Kenta YAMAUCHI

指導教員：河野 和宏

In recent years, young people, like college students, have been interested in investing. They do not, however, acquire knowledge to invest safely, and fraud groups efficiently target them. To get some knowledge of investments, we design a learning game called “investment fraud prevention learning game,” which is created based on the concept of a one-night werewolf game. In this game, users divide into a player and two advisers. The player can experience how a cheater in the advisers deceives the player. This game can also teach how to prevent fraud efficiently in a short time.

Key Words: *financial education, investment fraud prevention learning game, one-night werewolf*

1. はじめに

近年、成人年齢の引き下げにより一人で始められることから、投資は興味を引く話題の一つとなっている。三菱UFJ フィナンシャル・グループの調査^[1]によると、資産形成に関する興味は、20 歳代の社会人と比べても同程度であり、8 割近くが関心を持っていることがわかる。一方、学生の金融リテラシーは同年代の社会人と比較して低く、低リテラシーに分類される人が半数を占める状況である。

このように投資に興味はあるが知識はないという状況にあると、「投資を楽に始められる」「安定して利益が得られる」といった謳い文句に騙されて高額商品を購入させられるケースが多発してしまう。実際、FX などでは自動売買ツールを使用したマルチ商法などの勧誘が後を絶たない。本研究では、そうした詐欺被害の防止法を学ぶことを目的とした教育ツール「投資詐欺体験ゲーム」を開発する。

2. 金融教育ツール「投資詐欺体験ゲーム」の開発

本研究では、人狼というゲーム構成が詐欺師かどうかを判別する方法を学ぶという本研究の目的に合致すると考え、多くの人狼ゲームの形態の中でも役職が明確であり自分がやるべきことが把握出来ること、短時間でゲームが終わることからワンナイト人狼をモチーフにした。ワンナイト人狼とは、平和な村の中に紛れ込んだ狼を、様々な情報の中から一度限りの議論タイムの中で見つけ、追放するゲームである。ワンナイト人狼の特徴として、必ず狼がいるわけではなく、村人しかないケースもあることである。つ

まり、全員信用できるかもしれない状況もあることで、少人数プレイでも騙し騙されやすい環境を作り上げている。

一方、ワンナイト人狼をそのまま活用すると、ゲーム性が強い学習してほしい内容を学べなくなるおそれがある。そこで、開発する「投資詐欺体験ゲーム」では、ある程度ゲームの流れを限定させ、筆者の想定内の中で話し合いや判断を行ってもらう形式をとった。

本ゲームの特徴は、ゲーム中に詐欺師が混ざっていることが最後まで隠されていること、ゲームの円滑な進行のためにゲームマスターを用意したことである。ゲームマスターの役割は、ゲームの冒頭でゲームの背景となるストーリーを説明するとともに投資の説明を行うこと、役職カードを配る時の質問受付、ゲーム終了時のフィードバックである。以下、このゲームの背景となるストーリー、ルール、役職、フィードバックについて述べる。

① ストーリー

投資に関するストーリーは、実在する例であること、参加者にとって理解しやすい内容であることを意識して作成された。今回は、大きな利益が期待できるため知識がない人を扇動しやすく、大学生の間で被害が多い仮想通貨に関連する詐欺を採用した。具体的には、「あなたは自分の資金を増やすために今話題の仮想通貨を始めようと考えている。そんなあなたのもとに二人の投資アドバイザーが現れた。二人の発言は少しずつ異なるので、安定して利益を出すアドバイザーをどちらか選ぶか、契約をせずに自分で勉強することを決断しなさい。」というものである。

② 進行の手順とルール

このゲームは3人用であり、ユーザ1人とアドバイザー（うち1人は詐欺師）2人に分かれて行う。後述する通り、役職はプレイヤー、正アドバイザー、詐欺師の3種類であるが、詐欺師のカードが2枚あるため、プレイヤー、詐欺師、詐欺師という状況もありうるようにしている。

ストーリーを説明した後、参加者のスマートフォンに役職カードをそれぞれ送信し、役職カードに記載された内容を見てもらう。次に、アピールタイムに移り、アドバイザーの2人は、プレイヤーに自らの勧める商品の内容を、役職カードに記載された内容に基づいて説明する。アピールタイム終了後、プレイヤーは各アドバイザーにカードの中に記載がある質問を行い、より詳しい情報を収集する。

その後、プレイヤーにどちらかのアドバイザーと契約するか、自身で勉強するかを選んでもらう。詐欺師と契約したら詐欺師が、正アドバイザーと契約したら正アドバイザーとプレイヤーが勝利する。プレイヤーが契約しなかった場合、アドバイザー2人がともに詐欺師ならプレイヤーが勝利し、正アドバイザーがいたら全員敗北扱いとなる。

最後に、フィードバックをゲームマスターから行う。

③ 役職

役職にはプレイヤー、正アドバイザー、詐欺師の3種類がある。それぞれ、以下の特徴がカードに記載されている。なお、ゲームの特性上、詐欺師が若干有利となっている。

・プレイヤー

プレイヤーの目的は、投資により資産を増やすことである。アドバイザー2人のアピールタイムを聞き、カードに記載がある質問を行いながら両者のうちどちらが利益を出せるかを判断する。質問項目は以下の内容である。

Q：手数料はどれくらいなのか

Q：入金と引き出しの方法

Q：アドバイザーに従えば利益は出るのか

・正アドバイザー

正アドバイザーの目的は、プレイヤーに契約を結んでもらうことである。法律を遵守しつつ、プレイヤーに自身の商品が魅力的で利益を出せることをアピールする。詐欺師と比べて安定的な取引を行うことが特徴である。

アピールタイムでは大手の信頼や安定した取引などを材料とする。質問の回答としては明確な数値を出す、利益が確実に出るとは言わないなど、法律を遵守しながらの回

答になる。たとえば、手数料の回答では、「入金につき5%の手数料がかかります。」と数値を述べることになる。

なお、正アドバイザーは、もう一人のアドバイザーが詐欺師であることは知らないものとしている。

・詐欺師

詐欺師の目的は、プレイヤーを騙し契約を結ぶことである。商品自体が嘘なので法律などは特に気にしなくて良い。プレイヤーにとってより魅力的な話を与え、契約することで金銭を巻き上げることを目指す。

アピールタイムでは小さな投資で大きな利益が生まれること、アドバイザーに従えばリスクはほとんどないことを材料にあげる。質問の回答として、具体的な数値をはぐらかして説明する、デメリットは話さずメリットのみを話すなど、契約させる言い回しを用いる。たとえば、手数料の回答では、「ありますが気にならないくらいの資産を構築できます。」とメリットを強調して述べることになる。

④ フィードバック

このゲームでは、振り返ったときに詐欺師の発言内容などを指摘し詐欺の対処について学ぶ時間が必要となる。そのため、ゲームの終了後にフィードバックの時間を設けている。フィードバックの時間には、詐欺師を除く人に、詐欺とわかった上で詐欺師の発言内容を振り返ってもらい、不審な点がなかったかを確認してもらう。最後にはゲームマスターから詐欺のよくある手口や言い回しなどを紹介し、詐欺の対処法についてより理解を深めてもらう。

3. 実験結果とまとめ

今回の実験では、正アドバイザー、詐欺師、プレイヤーの3枚のカードを使用した。被験者は9名であり、ゲーム終了後にアンケートを行った。その結果、「ゲームを通して投資詐欺への対処は理解できたか」という項目において、全員が「完璧に理解できた」「ある程度理解できた」と回答した。これより、詐欺への対処法の理解や投資への理解に関しては一定の学習効果が見られたと言える。

一方、ゲーム終了時の感想においてゲームが難しく感じてしまうという問題点も見つかったため、ゲームの理解度や取り組みやすさを向上させる必要がある。

参考文献

[1] 三菱UFJフィナンシャル・グループ：学生の投資に対する意向調査、https://www.tr.mufg.jp/shisan-ken/pdf/kinnyuu_lit eracy_13.pdf（2023年1月25日確認）。